

P2-032

健康教育のための「子ども健康手帳」の開発

服部 淳子¹⁾、柴 邦代¹⁾、汲田 明美¹⁾、岡崎 章²⁾愛知県立大学 看護学部¹⁾、
拓殖大学 工学部 感性デザイン²⁾

【目的】子どもが発達段階に応じて、健康状態を記録、管理できる「子ども健康手帳」を開発する。さらに、開発した「子ども健康手帳」の有効性について評価する。

【方法】研究1 子どもの健康管理、健康教育の実態調査

1) 対象：A 県内の保育園、幼稚園（以下、保育園）に通う 2～6 歳の子どもの持つ保護者 437 名

2) 期間：2018 年 8 月～9 月

3) 方法 研究協力に承諾の得られた 3 園に、調査票の配布を依頼し、保育園内の回収箱で回収した。調査内容は、発達や健康記録の管理方法、健康教育内容等であり、4 段階リッカート尺度で調査し、自由記述でも意見を求めた。

4) 倫理的配慮：研究の目的、方法、協力の自由等を書面で説明し、投函により同意を得た。なお、A 大学倫理審査委員会の承認を得た。

5) 結果及び考察 回収は 299 部（回収率 68.4%）であった。健康診査、身長・体重の記録は、母子手帳に記載するが 16 名（5.4%）、52 名（17.4%）と少なかったが、小児期感染症歴は 121 名（88.2%）が記載していた。これらの結果より、入園後の健康や発達の記録・管理が十分に行われていないことが明らかとなった。

この結果を基に、「子ども健康手帳」の内容について検討し、成長・発達の記録、予防接種、薬、既往歴、健康な身体作りの説明等を内容とすることとした。

研究2 「子ども健康手帳」の有効性の評価

1) 対象：A 県内の幼稚園に通う 2～6 歳の子どもの持つ保護者 250 名と、保育士・幼稚園教諭（以下、保育士）40 名

2) 期間：2019 年 8 月～11 月

3) 方法 研究協力に承諾の得られた 3 園に、保護者と保育士への調査票の配布を依頼し、保育園内の回収箱で回収した。調査内容は、保護者へは、「子ども健康手帳」に対する子どもの興味・程度、内容の理解度等で、保育士へは、「子ども健康手帳」の園での活用性等である。4 段階のリッカート尺度で調査し、自由記述でも意見を求めた。

4) 倫理的配慮：研究1と同様の手順で、A 大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

5) 結果及び考察

回収は、保護者 104 名（回収率 41.6%）、保育士 14 名（回収率 35.0%）であった。「子ども健康手帳」の活用性は、71 名（68.3%）、8 名（57.4%）、内容は、68%（65.4%）、9 名（64.2%）がよい、まあまあよいであった。

今回開発した「子ども健康手帳」については、保護者、保育士から子どもの健康教育に有効であるとの結果が得られた。今後保育園での活用方法等について検討していきたい。

P2-033

演題取下げ